人口ビジョン

人口ビジョンは、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画立案する上で重要な基礎と 位置付けられます 。

人口ビジョンでは人口のメカニズム（仕組み）を分析・考察し、目指すべき将来の方向性を定めることで、富良野市の将来人口が結果としてどの程度になるのかを想定するものであり、各施策の アウトカム（成果）として、重要な指標のひとつとなります 。

※**地方独立行政法人北海道立総合研究機構（道総研）**の協力により、人口メカニズムの分析・人口ビジョンの設定を行いました。

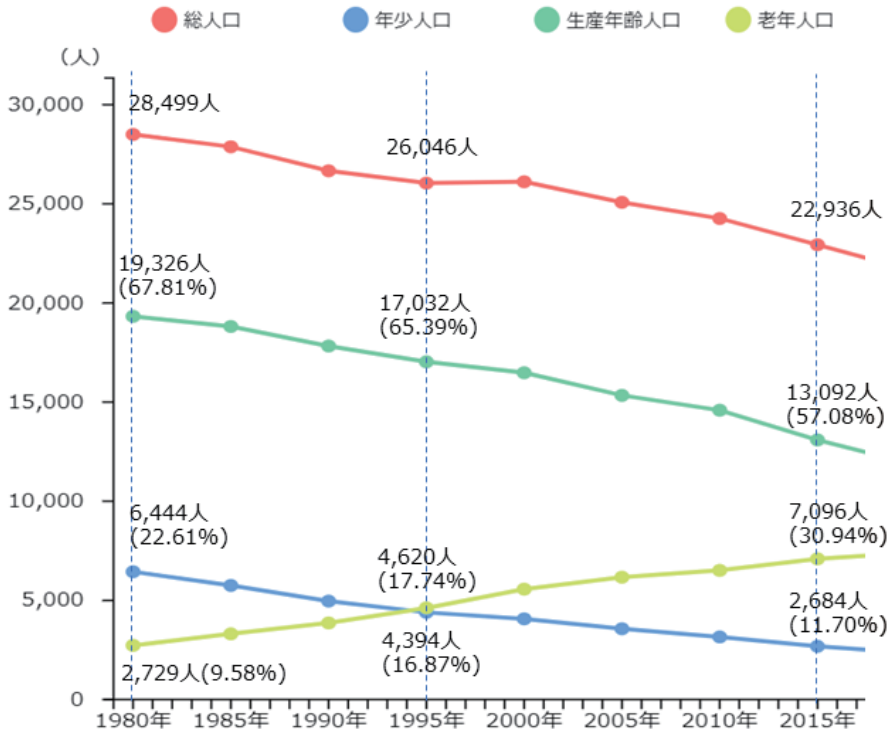
1. 総人口および年齢 3 区分別人口の推移と将来人口推計

1-1 富良野市の総人口と年齢 3 区分別人口の推移

■1980 年 28,499 人、1995 年 26,046 人、2015 年 22,936 人と人口減少は加速しています。

■1995 年に老年人口が 4,620 人、年少人口が 4,394 人と構成比が逆転し、年少人口よりも老年人口が占める割合が高くなりました 。

■年少人口は、1995 年の 16.87% から 2015 年の 11.70% に大幅に減少し少子化が加速、老年人口は 1995年 17.74%から2015年 30.94% と急激に高齢化が進んでいます。

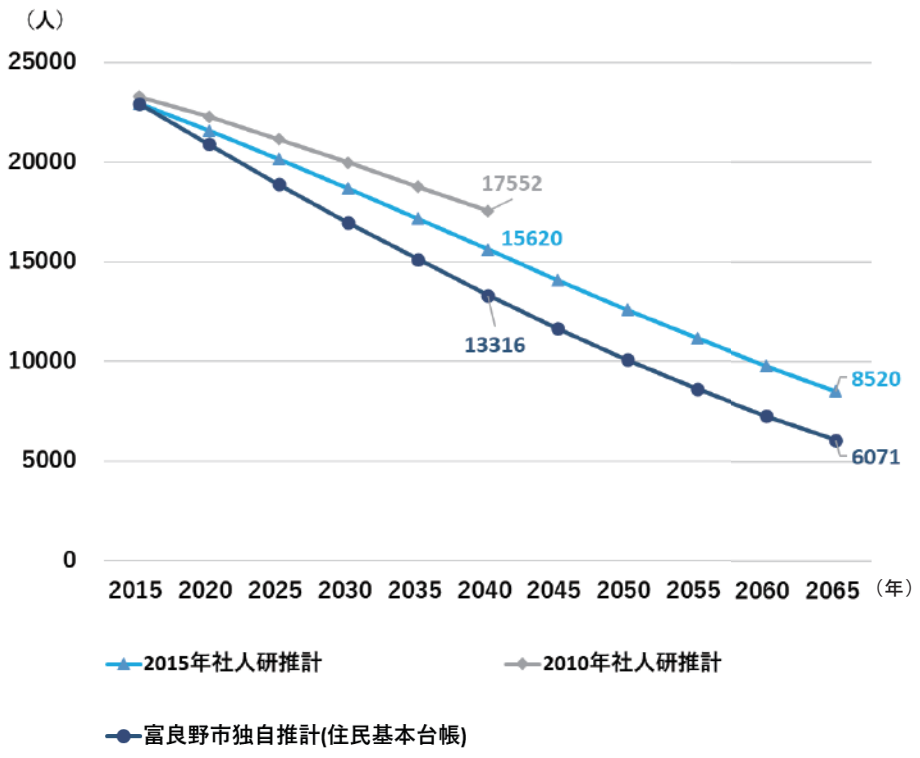


1. 総人口および年齢 3 区分別人口の推移と将来人口推計

1-2 富良野市の将来人口推計

■国立社会保障・人口問題研究所（以下社人研）の富良野市の 2010 年と 2015 年の国勢調査を基にした推計では、2015 年推計の方が人口減少幅が拡大しています。

■国から提供されている「まち・ひと・しごと創生本部ワークシート」を使い、富良野市の住民基本台帳（2015-2019 年平均）や出生率の実態をもとに算出した推計人口は、社人研 2015 年推計人口よりもさらに減少幅が拡大しており、実態として社人研推計よりも人口減少が加速しています。



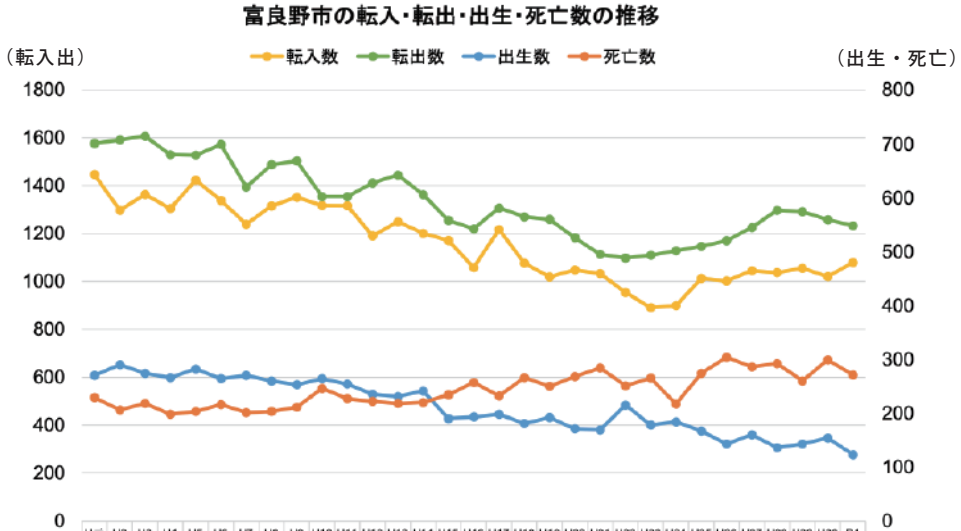
2. 人口動態

2-1 富良野市の自然増減と社会増減の推移

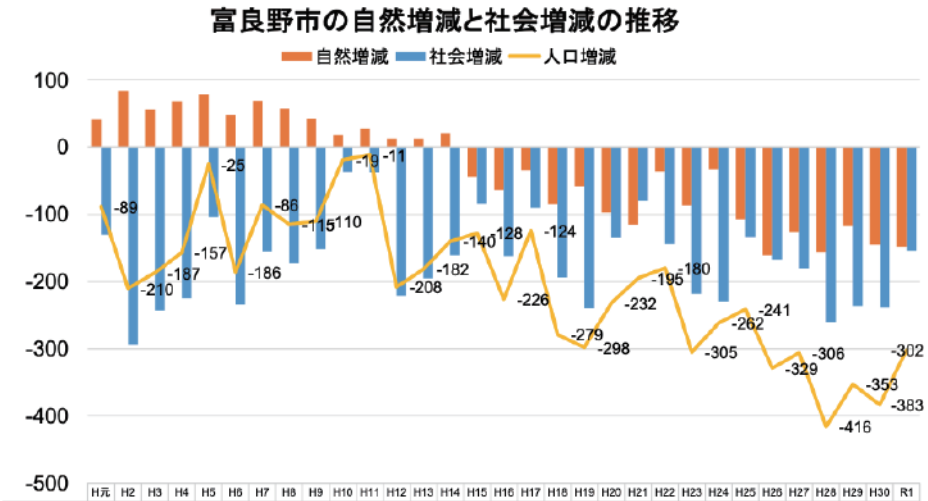
■少子化に伴い、出生数は減少傾向、高齢化に伴い死亡数は増加傾向となっています。

■平成 14 年度（2002 年）までは自然増でしたが、それ以降は自然減となり、人口増減における自然減の影響は年々強まっています。

■社会減は景気や求人動向等に左右されて変化していると考えられますが、自然減の影響よりも大きくなっています。



	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
転入数	1446	1297	1363	1304	1423	1338	1239	1315	1351	1317	1316	1190	1249	1201	1171	1058	1217	1076	1019	1048	1033	954	891	899	1013	1002	1045	1037	1055	1020	1079
転出数	1576	1591	1606	1529	1527	1572	1394	1467	1503	1354	1354	1411	1444	1362	1255	1220	1307	1270	1259	1183	1113	1098	1109	1128	1147	1170	1225	1297	1291	1258	1233
出生数	270	290	274	266	282	264	270	260	253	264	254	235	231	241	190	193	198	181	192	171	169	215	178	184	167	143	160	136	143	154	123
死亡数	229	206	218	198	203	216	201	203	211	246	227	222	218	220	234	257	232	266	250	268	284	251	265	217	274	304	286	292	260	299	271

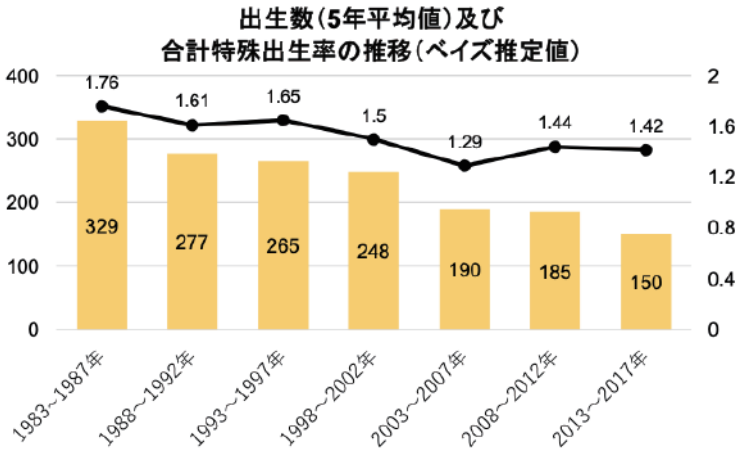


	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
自然増減	41	84	56	68	79	48	69	57	42	18	27	13	13	21	-44	-64	-34	-85	-58	-97	-115	-36	-87	-33	-107	-161	-126	-158	-117	-145	-148
社会増減	-130	-294	-243	-225	-104	-234	-155	-172	-152	-37	-38	-221	-195	-161	-84	-162	-90	-194	-240	-135	-80	-144	-218	-229	-134	-166	-180	-260	-236	-238	-154
人口増減	-89	-210	-187	-157	-25	-186	-86	-115	-110	-19	-11	-208	-182	-140	-128	-226	-124	-279	-298	-232	-195	-180	-305	-262	-241	-329	-306	-416	-353	-383	-302

2. 人口動態

2-2 自然増減（出生数・合計特殊出生率の推移）

■出生率は、富良野市は 2008 年からは 1.4 程度で推移し、全国平均とほぼ同じ全道平均に比べると高くなっています。

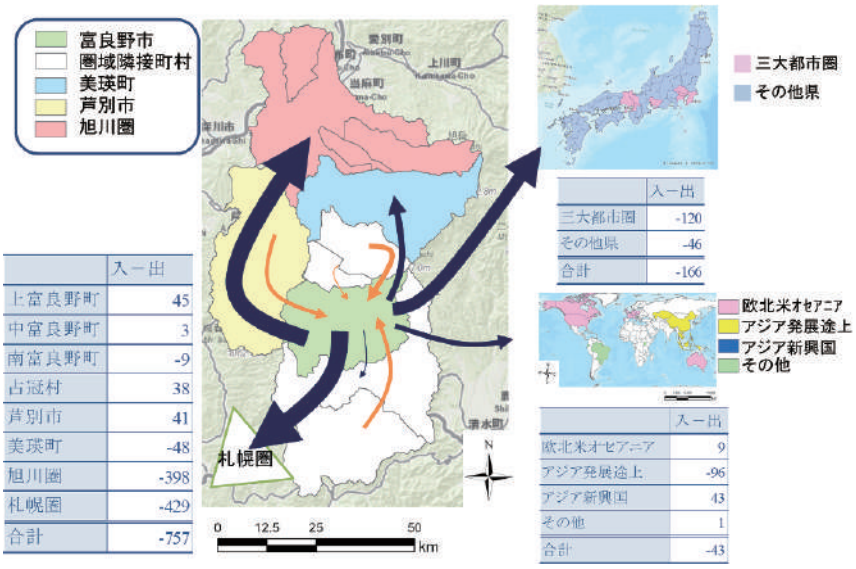


		2008年～2012年	2013年～2017年
全国		1.38	1.43
北海道		1.25	1.30
富良野市		1.44	1.42
近隣市町村	上富良野町	1.66	1.62
	中富良野町	1.52	1.46
	南富良野町	1.35	1.36
	占冠村	1.21	1.28
類似団体	旭川市	1.31	1.38
	士別市	1.36	1.46
	名寄市	1.52	1.52

2-3 富良野市の社会増減：富良野市の転入－転出

※住民基本台帳 H27-R1（2015-2019）累計値

■近隣市町村よりも札幌圏・旭川圏・道外・国外の転出入の方が多くなっています。
■近隣市町村からは転入超過の傾向ですが、札幌圏・旭川圏・道外などへは大きく転出超過となっています。
■近隣からの転入超過に比べ、札幌圏・旭川圏・道外などへの転出超過が大きく、市全体では転出超過になっています。



	入－出
上富良野町	45
中富良野町	3
南富良野町	-9
占冠村	38
芦別市	41
美瑛町	-48
旭川圏	-398
札幌圏	-429
合計	-757

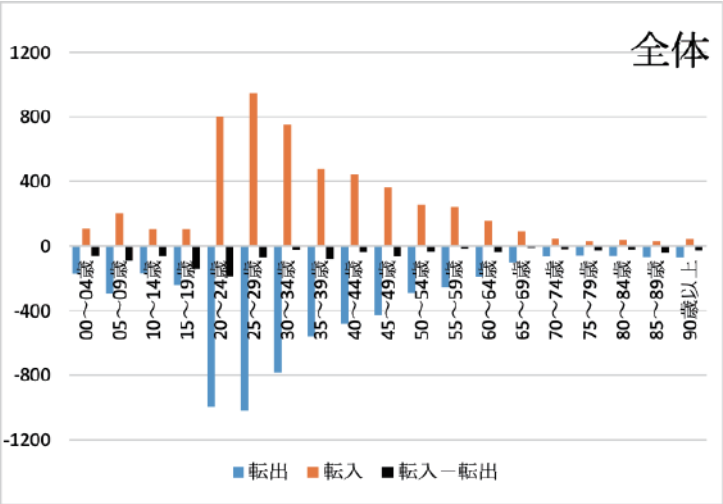
	入－出
三大都市圏	-120
その他県	-46
合計	-166

	入－出
欧北米オセアニア	9
アジア発展途上	-96
アジア新興国	43
その他	1
合計	-43

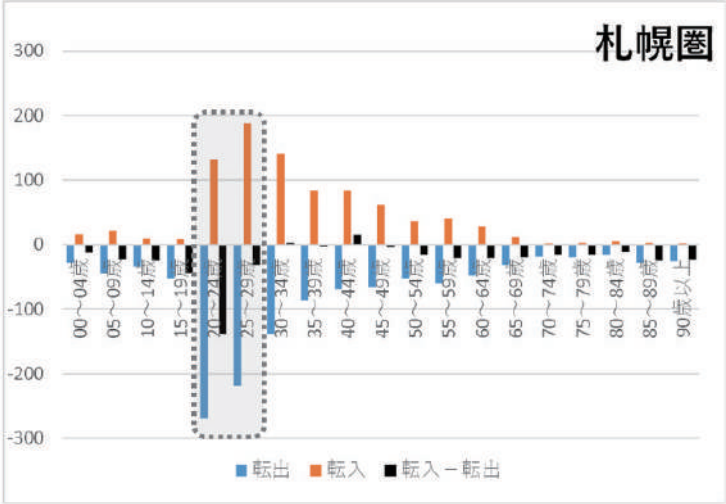
2. 人口動態

2-4 富良野市の社会増減：5 歳階級別転出入状況

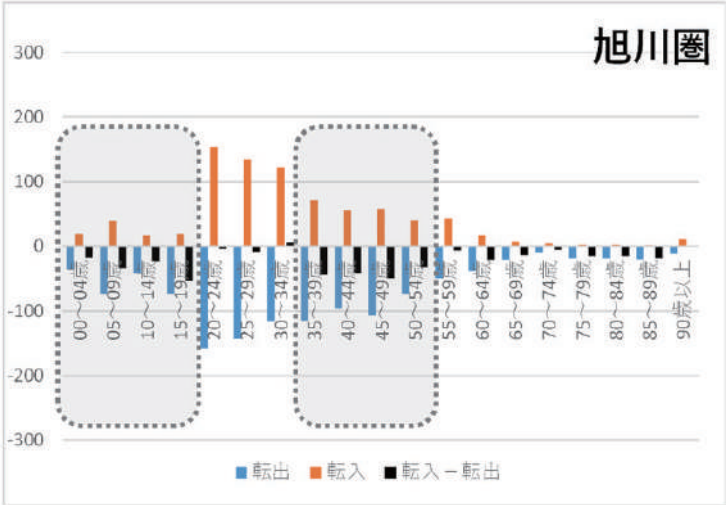
※住民基本台帳 H27-R1（2015-2019）累計値



■全世代で転出超過となっています。



■札幌圏にはほとんどの世代が転出超過、特に 20～24 歳の転出超過が大きくなっています。高齢者の転出超過も少なくありません。



■旭川圏にはほとんどの世代が転出超過となっている中で、特に 19 歳以下の子供と 35～ 54 歳の転出超過が大きくなっています。

2. 人口動態

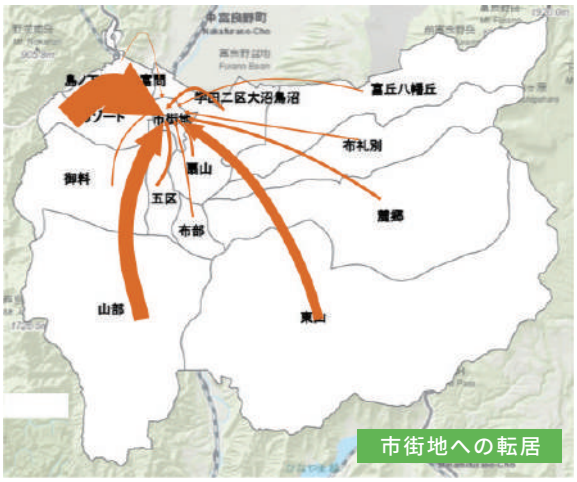
2-5 富良野市の社会増減：市内の転居状況

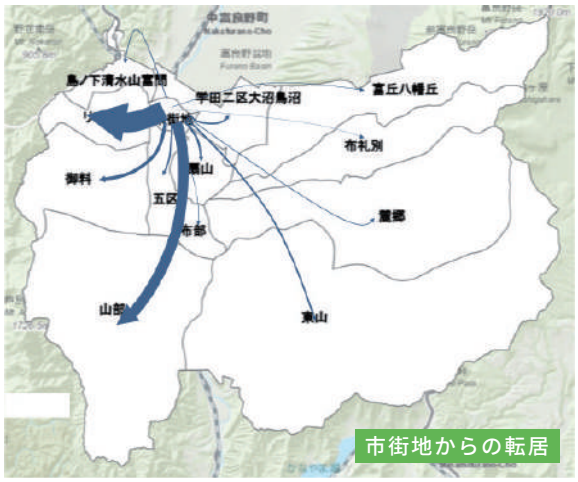
※住民基本台帳 H27-R1（2015-2019）累計値　転居者数が 10 以上のみ表示

■市街地以外の地区から、市街地に人口が集まっています。

■リゾート地区、山部地区は市街地からの転居、市街地への転居も多いですが、やや市街地への転居が多くなっています。

■東山地区は、市街地への転居が市街地からの転居よりも圧倒的に多く、市街地に吸収される形で人口減少が進んでいます。





3. 目指す将来人口ビジョン

3-1 主な方向性

■出生率 1.47 を維持する
■20～40代の転出超過を抑える

■出生率の維持

・現在の人口を維持するには、出生率を約 40%アップする必要があり、現実性は低いと考えられる。このことから、最低でも現状の出生率を維持しながら、出生数を減少させないために社会移動を抑えていくことが大切です。

■転出超過の抑制

・転出の抑制

-20 ～ 40 代の労働・子育て世代の転出を抑制することが必要です。

・転入の促進

- 富良野の持つ魅力を最大限活かした移住や関係人口の創出が必要です。

3. 目指す将来人口ビジョン

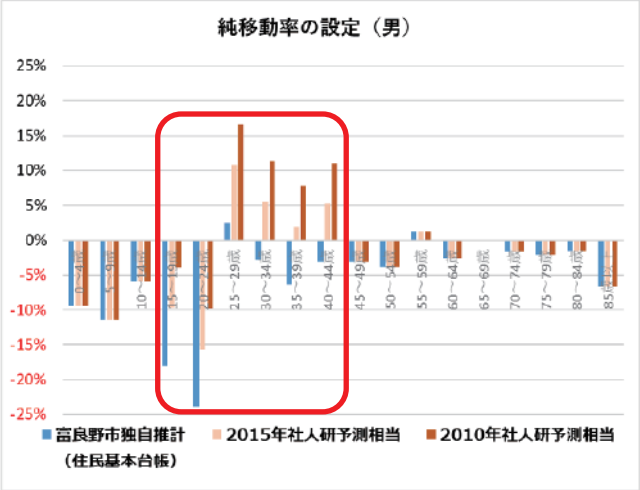
3-2 20 ～ 40 代の純移動率の設定

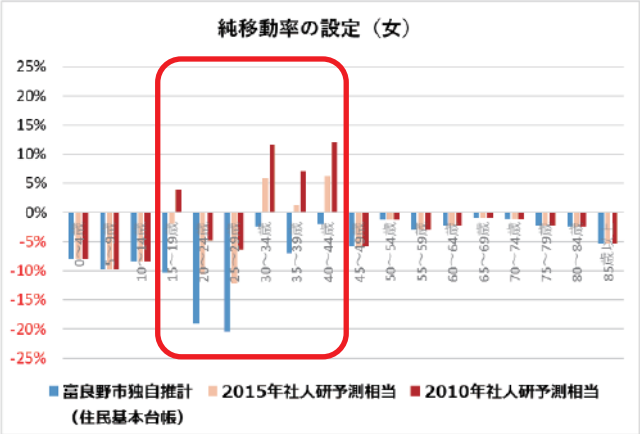
■20 ～ 40 代の労働・子育て世代の転出超過と、それに伴う出生数の減少を防ぐために、「20 ～ 40 代の純移動率」をどの程度上昇させる必要があるか算定しました。

■現在の成り行き（富良野市独自推計ベース）から、各社人研予測相当にするためには 15 ～ 44 歳 (20 ～ 40 代) の純移動率を、8.3%(2015 年社人研予測相当)、14.1% (2010 年社人研予測相当) 上げる必要があります。

■新しい人口ビジョンでは、20 ～ 40 代の各純移動率の上昇分として富良野市独自推計ベースの予測よりも＋8.3%（社人研 2015 年予測相当）と設定します。

	富良野市独自推計（住民基本台帳）	2015年社人研予測相当	2010年社人研予測相当
出生率	1.47	1.47	1.47
2040年予測人口	13,316	15,635	17570
15~44歳純移動率の上昇割合	0.00%	8.30%	14.10%

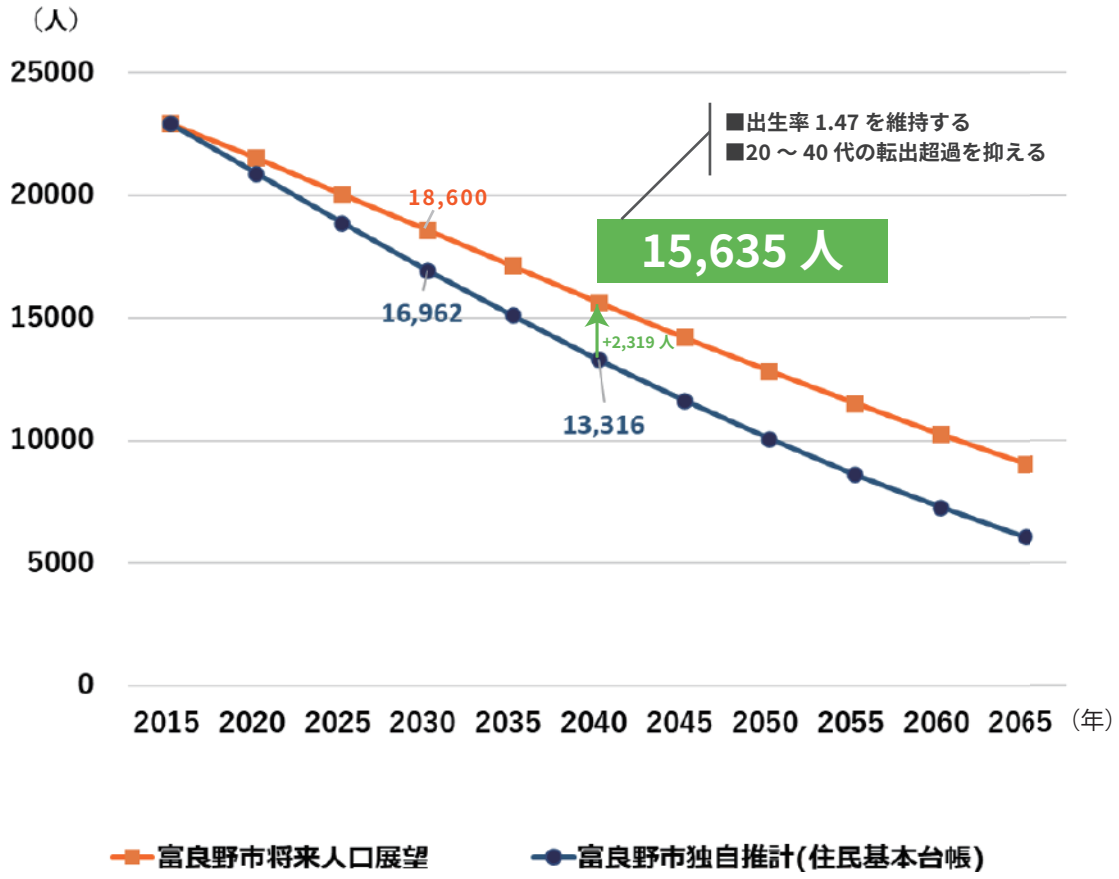




3. 目指す将来人口ビジョン

3-3 将来人口展望

■20 ～ 40 代の労働・子育て世代の転出超過と出生数の減少を抑制し、出生率は現状を維持することで、2015 年社人研推計人口相当の人口推移となることを目指します。（2040 年時点で 15,635 人）

■富良野市独自推計ベースによる予測と比べて、20 ～ 40 代の純移動率を＋8.3%（2040 年時点で＋2,319 人相当の増加）を目指します。

		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
富良野市 将来人口展望 (20-40代の純移動率 +8.3%)	富良野市独自推計	20,914	18,895	16,962	15,126	13,316	11,644	10,084	8,624	7,288	6,071
	2015年社人研予測相当	21,539	20,069	18,600	17,146	15,635	14,214	12,851	11,526	10,269	9,047
	増加目標-総数	**624**	**1,174**	**1,638**	**2,020**	**2,319**	**2,570**	**2,767**	**2,901**	**2,981**	**2,976**
	増加目標-男	306	579	816	1,015	1,167	1,295	1,396	1,463	1,499	1,491
	増加目標-女	318	595	822	1,005	1,152	1,275	1,370	1,438	1,482	1,485